

確率統計基礎講義Aレポート課題2

レポート用紙に、以下の、問1、問2、問3 (それぞれ、□までが問題) の解答を作成して、8月18日(金)までに、数学事務室カウンター前のボックスに提出してください。

$(X_1, Y_1), \dots, (X_n, Y_n)$ は独立な2次元確率変数で、

$$\begin{aligned} P(X_i = j, Y_i = k) &= p_{jk} \quad (j, k) \in \{0, 1\} \times \{0, 1\}, \\ p_{00} + p_{01} + p_{10} + p_{11} &= 1 \end{aligned}$$

とする。 (X_i, Y_i) の確率関数を $f(x_i, y_i)$ とすると

$$f(x_i, y_i) = \begin{cases} p_{00}^{x_i y_i} p_{01}^{x_i(1-y_i)} p_{10}^{(1-x_i)y_i} p_{11}^{(1-x_i)(1-y_i)} & x_i, y_i \in \{0, 1\} \times \{0, 1\} \\ 0 & \text{その他} \end{cases} \quad (1)$$

と表される。

$(X_1, Y_1), \dots, (X_n, Y_n)$ の実現値を $(x_1, y_1), \dots, (x_n, y_n)$ とし

$$N_{kl} = \#\{i; (x_i, y_i = (k, l)), i = 1, 2, \dots, n\} \quad (k, l) \in \{0, 1\} \times \{0, 1\}$$

と定義する。ただし、 $\#$ は集合に含まれる要素の個数を表す。

問1. $\theta = (p_{00}, p_{01}, p_{10})'$ の尤度関数を、 p_{kl}, N_{kl} ($k, l = 0, 1$) を用いて表せ。 □

問2. θ の最尤推定量は

$$\hat{\theta} = \left(\frac{N_{00}}{n}, \frac{N_{01}}{n}, \frac{N_{10}}{n} \right)'$$

で与えられることを示せ。 □

X_i と Y_i が独立であるとは、 $(k, l) \in \{0, 1\} \times \{0, 1\}$ に対して

$$P(X_i = j, Y_i = k) = P(X_i = j)P(Y_i = k)$$

が成り立つことであるから、

$$\xi = (p_{0\cdot}, p_{\cdot 0})', \quad p_{j\cdot} = P(X_i = j), \quad p_{\cdot k} = P(Y_i = k),$$

とおくと、 X_i と Y_i が独立であるという仮説は

$$H_0 : \theta = \theta(\xi) := \begin{pmatrix} p_{0\cdot} p_{\cdot 0} \\ p_{0\cdot}(1 - p_{\cdot 0}) \\ (1 - p_{0\cdot})p_{\cdot 0} \end{pmatrix}$$

と表すことができる。

問3 仮説 H_0 の下で, ξ の最尤推定量は

$$\hat{\xi} = \left(\frac{N_{00} + N_{01}}{n}, \frac{N_{00} + N_{10}}{n} \right)'$$

で与えられることを示せ. □

(1) の $f(x_i, y_i)$ を $f(x_i, y_i; \theta)$ と表す. $p_{11} = 1 - p_{00} - p_{01} - p_{10}$ なので

$$\begin{aligned} \frac{\partial \log f(X_i, Y_i; \theta)}{\partial p_{00}} &= \frac{X_i Y_i}{p_{00}} - \frac{(1 - X_i)(1 - Y_i)}{p_{11}} \\ \frac{\partial^2 \log f(X_i, Y_i; \theta)}{\partial p_{00}^2} &= -\frac{X_i Y_i}{p_{00}^2} - \frac{(1 - X_i)(1 - Y_i)}{p_{11}^2}, \\ \frac{\partial^2 \log f(X_i, Y_i; \theta)}{\partial p_{00} \partial p_{01}} &= -\frac{(1 - X_i)(1 - Y_i)}{p_{11}^2}, \end{aligned}$$

より,

$$-E \left[\frac{\partial^2 \log f(X_i, Y_i; \theta)}{\partial p_{00}^2} \right] = \frac{1}{p_{00}} + \frac{1}{p_{11}}, \quad -E \left[\frac{\partial^2 \log f(X_i, Y_i; \theta)}{\partial p_{00} \partial p_{01}} \right] = \frac{1}{p_{11}}$$

となる. 同様にして, 残りの2次導関数の期待値も計算することで, フィッシャーの情報量行列とその逆行列は

$$\begin{aligned} J(\theta) &= \begin{pmatrix} p_{00}^{-1} & & \\ & p_{01}^{-1} & \\ & & p_{10}^{-1} \end{pmatrix} + p_{11}^{-1} \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 \\ 1 & 1 & 1 \end{pmatrix}, \\ J(\theta)^{-1} &= \begin{pmatrix} p_{00} & & \\ & p_{01} & \\ & & p_{10} \end{pmatrix} - \begin{pmatrix} p_{00} \\ p_{01} \\ p_{10} \end{pmatrix} \begin{pmatrix} p_{00} & p_{01} & p_{10} \end{pmatrix} \end{aligned}$$

となることがわかる. 従って, 問2, 問3 を用いるとワルド検定統計量は

$$\begin{aligned} T_W &= n(\hat{\theta} - \theta(\hat{\xi}))' J(\hat{\theta})(\hat{\theta} - \theta(\hat{\xi})) \\ &= \frac{(N_{00} - n\hat{p}_{00}^{(0)})^2}{N_{00}} + \frac{(N_{01} - n\hat{p}_{01}^{(0)})^2}{N_{01}} + \frac{(N_{10} - n\hat{p}_{10}^{(0)})^2}{N_{10}} + \frac{(N_{11} - n\hat{p}_{11}^{(0)})^2}{n_{11}} \end{aligned}$$

となる. ただし, $\theta(\hat{\xi}) = (\hat{p}_{00}^{(0)}, \hat{p}_{01}^{(0)}, \hat{p}_{10}^{(0)})'$, $\hat{p}_{11}^{(0)} = 1 - \hat{p}_{00}^{(0)} - \hat{p}_{01}^{(0)} - \hat{p}_{10}^{(0)}$. である.

一方,

$$s_n(\theta(\hat{\xi})) = \frac{\partial}{\partial \theta} \sum_{i=1}^n \log f(x_i, y_i; \theta(\hat{\xi})) = \left(\frac{N_{00}}{\hat{p}_{00}^{(0)}} - \frac{N_{11}}{\hat{p}_{11}^{(0)}}, \frac{N_{01}}{\hat{p}_{01}^{(0)}} - \frac{N_{11}}{\hat{p}_{11}^{(0)}}, \frac{N_{10}}{\hat{p}_{10}^{(0)}} - \frac{N_{11}}{\hat{p}_{11}^{(0)}} \right)'$$

となるから, スコア検定統計量は

$$\begin{aligned} T_s &= \frac{1}{n} s_n(\theta(\hat{\xi}))' J(\theta(\hat{\xi})) s_n(\theta(\hat{\xi})) \\ &= \frac{(N_{00} - n\hat{p}_{00}^{(0)})^2}{n\hat{p}_{00}^{(0)}} + \frac{(N_{01} - n\hat{p}_{01}^{(0)})^2}{n\hat{p}_{01}^{(0)}} + \frac{(N_{10} - n\hat{p}_{10}^{(0)})^2}{n\hat{p}_{10}^{(0)}} + \frac{(N_{11} - n\hat{p}_{11}^{(0)})^2}{n\hat{p}_{11}^{(0)}} \end{aligned}$$

となることが確かめられる.